

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第8回西脇市総合計画審議会
開催日時	令和7年2月6日（木） 午前10時から午前11時30分まで
開催場所	西脇市役所 大会議室
出席委員の 氏名又は人数	16名
欠席委員の 氏名又は人数	2名
出席職員の職・ 氏名又は人数	事務局3名
公開・非公開 の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2名
議題又は 協議事項	1 パブリック・コメントの実施結果について 2 第7回審議会以降の主な変更点について 3 後期基本計画策定に係る「総合計画審議会からの答申」について 4 その他
会議の記録（概要）	
発言者	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>（資料確認）</p> <p>（会議成立の報告）</p> <p>1 会長あいさつ 本日は第8回目の会議となる。これまでに会議を重ね、最終案がまとまってきた。本日が最後の会議となる予定である。本日もよろしく願います。</p>
事務局	
会長	

<p>事務局 会長</p>	<p>2 パブリック・コメントの実施結果について</p> <p>資料 1 に基づき、事務局から説明</p> <p>質問等があれば発言をお願いします。</p> <p>(意見等なし)</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>3 第 7 回審議会以降の主な変更点について</p> <p>資料 1 に基づき、事務局から説明</p> <p>質問等があれば発言をお願いします。</p> <p>(意見等なし)</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>4 後期基本計画策定に係る「総合計画審議会からの答申」について</p> <p>資料 1 に基づき、事務局から説明</p> <p>答申案について事務局から説明があった。これまでの審議会において各委員が発言された内容のうち、具体的なものは計画書の中に記載され、普遍的なものについては答申書の留意事項として、審議会の意見をベースに作成されている。答申案については事前に照会され、その意見も反映されているが、全体を通して質問や意見があれば発言してほしい。</p> <p>(意見等なし)</p>
<p>会長</p>	<p>審議会として諮る。総合計画・後期基本計画(案)を決定し、市長に答申してよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>(会長から市長へ答申)</p>

事務局	<p>本日が最後の会議となるため、各委員から総合計画の策定に関わった感想や今後のまちづくりに期待すること、ご自身の活動などについて伺いたい。</p>
委員	<p>行政の役割として、1つ目に、障害者や高齢者など、社会的弱者と言われる方を対象とした施策を考えること、2つ目に、道路や橋りょうなどのインフラの整備更新を行い後世につないでいくこと、3つ目に、計画を作って終わりとせず、市民に伝え、着実に実行していくことの3点が大切だと考えている。</p> <p>本日、答申となったが、こういった点を心に留めながら進めていって欲しい。</p>
委員	<p>各種団体の長として、総合計画審議会以外にも様々な審議会等に参加する機会があり、行政の行っていることが少しずつ分かってきたように思う。</p> <p>私の子どもは西脇に戻ってきたいとの思いはあるが、やりたい仕事、好きなことなどを総合的に考えると、戻ることが難しいようである。市も魅力あるまちに向けて取り組んでいることは理解できるが、どうしたら子どもたちが帰ってきたいまちになるのか、悩ましく思っている。</p> <p>黒田庄地区では、学校統廃合の問題で、地域の中でも揉めている。私はこのような会議に参加したことで、行政がいうことも、地域の人々の気持ちも分かる。地域の人を説得できる程では無いが、何か聞かれることがあれば、「そうじゃないと思いますよ」といった声をかけている。</p> <p>団体の活動としては、防犯・防災に注力している。啓発運動が主で、イベント等に出展するなどしているが、2年ほど会長職をしたことで、もう少し行政と一緒に何かできるのではないかと感じているところである。会員が少ないことが課題のため、その点も考えていきたい。</p>
委員	<p>この会議を通じ、地域の方針や進むべき方向について少しずつ理解が深まったように感じている。今回の会議には途中からの参加となったため、内容は十分に理解できないままとなるが、これらの内容をまとめることは大変なご苦勞をされていることと思う。</p> <p>普段は、高齢者の見守り活動などを行っているが、特に災害時のことを懸念している。小学校や公民館などの避難</p>

	<p>所までの移動が難しいことや、避難所が開設されたとしても、毛布や食料が不足している場合には、避難する意味があるのかといった疑問もある。避難方法について、もう少し具体的な対策を考える必要があると感じている。個人情報の取扱いやプライバシーの問題もあると思うが、どこにどのような人が住んでいるのか、地域の居住者情報を把握することは、防災において非常に重要だと考えている。現実的に、防災マップだけでは具体的な対応は難しいと感じており、高齢者の見守りや避難の支援について、もっと実効性のある計画が必要だと感じている。今後、行政も防災に力を入れていただきたいと強く感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>なかなか若者が帰ってこないという意見が多いと思うが、実際に帰ってきて、西脇が良いまちと感じている若者もいることを紹介したい。私の息子のことになるが、高校から大学までアメリカに留学して無事に卒業した。突然アメリカに留学したいと言い出した時は、息子が本当に行くとは思っていなかったが、しっかりと行動に移したことに驚いた。また、卒業後は東京に住んだこともあり、西脇には戻らないと思っていたが、しばらく東京で暮らした後、親の仕事を継ぐために自ら西脇市に戻ってきた。「東京やアメリカに行ったが、西脇は良いところだ」と言っており、非常に嬉しく感じている。</p> <p>私が住んでいる地区では、子どもの数も比較的多いように思う。息子にも子どもがおり、子供会などにも積極的に参加している。私の出身は県外だが、西脇は神戸や大阪に近いこと、災害が少ないこと、人が温かいことなど、住み良いまちだと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>西脇市では今、学校統合のことなどが議論されていると思うが、市全体として変わっていくチャンスするときだと感じている。様々な支援策が行われていると思うが、子育てしやすいまちづくりに取り組んでいくことが、大人も住みたい、若者も帰ってきたいまちになると思う。そのような循環でまちが活性化していくと思う。ここまで2年間検討してきたことを持続し、また、市民の方にも知ってほしいと思う。今回、様々な分野の方から意見を聞いたことはとても勉強になった。</p>

委員	<p>総合計画審議会に参加した2年の間に4つの医療機関が閉院し、新設は見込めない状況である。消滅可能性自治体といった報道もあったが、脱却して欲しいと思う。</p> <p>答申書に「西脇市で暮らしたい、暮らし続けたい」とあり、皆さんもそのように感じていると思うが、市外からも移住してきてもらえるような魅力あるまちづくりを目指してほしい。それが、開業医の増加にもつながると思う。</p>
副会長	<p>貴重な機会となり、感謝申し上げます。今の大学に着任してから、一緒に仕事をしたいと最初に考えたのが西脇市であり、関わるようになって10年が経過した。このような会議や実践活動を通じて、市民の地域に対する愛着はとても強く、深いと感じている。本日の答申書からも、そのような強い思いを感じる。また、計画書本編にも西脇市らしさやオリジナリティが表現されていると思う。総合計画審議会は本日が最終日となるが、これからも西脇市との関わりを継続し、地域の方とともに「西脇らしさ」を一緒に育んでいきたいと思う。</p> <p>他の委員から「消滅可能性自治体」の話題が出たが、負けていけないと思う。</p>
副会長	<p>私は区長会からこの審議会に参加している。区長会は最も地域住民に近いと考えている。各区長は住民の顔だけでなく、地域ごとの様々な問題や状況も把握している。</p> <p>総合計画には様々な分野の内容が掲載されていることもあり、会議に参加していても、全てを地域の人に説明することは難しいと感じている。しかし、計画書に記載されていることの一部でも、目に見える形で実行されることで、住民も行政が前向きに取り組んでいると感じることができると思う。その結果、地域の活性化にもつながると考えている。</p> <p>少子高齢化については避けて通れない問題だと考えている。子どもを育てるには長い時間が必要で、少子化問題はすぐに解決できることではない。一方で、現状を少しでも改善し、地域コミュニティの意思疎通を深め、住民が気軽に話せるような環境を作ることが重要だと思っており、区長会としてもそのような環境づくりに貢献できるように努めていきたい。</p> <p>総合計画は西脇市の指針となる計画であるため、今後、</p>

<p>委員</p>	<p>各部署が、この指針を基に様々な事業を展開していくと思う。100%の実現は難しいと思うが、少しでも目に見える形で、具体的に進めてもらえることを期待している。</p> <p>障害者福祉の仕事に従事していたこともあり、男女共同参画の啓発ボランティアの活動をしている。人権に焦点を当てた活動という点が共通しており、このボランティアに興味を持った。</p> <p>障害者福祉の仕事や男女共同参画のボランティア活動の中で学ぶことは多くあるが、どちらも共通する分野であることから、少し偏った視点になってしまうことがある。この審議会に参加し、他の委員の意見を聞く中で、普段の活動とは異なる視点に触れることができ、新たな気づきを得られた。また、私が普段の活動で関わる人たちと、各委員の分野には重なるものがあることにも気付いた。この経験を通じて、自分の活動以外にも関心を持つとともに、自分が関わっている人々にも良い影響を与えられるよう努めていきたいと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>私は消防団長としてこの審議会に参加している。消防団は「地域防災の要」とも言われるが、私は「地域コミュニティの基盤」だと考えている。最初に子供会、次に消防団、そして自治会へと、地域内で順に所属していくと考えている。特に、子供会の次のステップとして消防団に参加することが、地域コミュニティを支える一助になると思う。消防団に所属する若い人は減っているが、年配者たちにもコミュニティがあり、消防団から自治会に入った時に、どのように地域を応援できるか、地域をどうしていくと良いかを考えている。</p> <p>高齢化が進んでいるため、地域の中に高齢者が多く、今後増えていくと思う。そのような中、隣人が誰か分からない、といった寂しいことだけではなく、日ごろからコミュニケーションを取っておくことが、地域のつながりを強化することに繋がり、特に子どもたちにその重要性を伝えていくことが必要だと考えている。</p> <p>元日に市内で発生した大規模火災では、最初に消防団員が駆け付けて消火活動をしていた。この消防団員が消防隊員に居住者全員が避難していることを伝えたため、消防隊員が不用意に建物に入ることなく、消火活動に専念できた</p>

と消防署から感謝が伝えられた。多くの高齢者が避難に困難を抱えている状況だと思うが、この事例からも、地域コミュニティが機能し、消防団や地域住民と一緒に支え合い、安全な場所への避難を実現するなど、地域の安全性を高め、ていくことが重要だと感じた。

近年「多様性」を重視する声が高まっており、良い面がある一方で、「個」が重視され、地域コミュニティとしては不足を感じている。市民全員が行政の取組に対して関心を持つことは難しいと思うが、例えば最初の10人に伝わり、そこからまた枝葉が伸びるように、何年か経ってより多くの人に伝播し、たくさんの方が西脇を良いまちだと感じられる、そのようなまちづくりにつながる総合計画になれば良いと思う。

最後に、総合計画を市民の方に知ってもらうことが大切だと思う。市民がこの計画を基に参画できるようなまちづくりが良いと思う。市民への理解を深めるのは容易ではないと思うが、私たち委員も含めて、一緒に訴え、より良い地域づくりに向けて努力していければ良いと思う。

委員

私は結婚を機に西脇市に住むようになった。最初はなかなか馴染めなかったが、今ではとても良いまちだと感じている。地域の方は親切で、様々なことが充実していると感じている。このため、私の子どもたちには西脇市で暮らして欲しいと思っており、日ごろから「西脇市は良い場所だ」と伝えている。子どもたちも同じように思っているようであるが、就職先などを理由に市外に出てしまったため、定年後など、将来的に戻ってくれることを期待している。

私は学校教諭を定年後、地域活動としてNPO法人で仕事をしている。子育て支援や子どもたちの学習支援など、子どもを中心とした活動を行っている。このような活動を多くの人に知ってほしいと感じている。

私の住む地域は、市内でも人口が多く活気があると思うが、区長や地域の役員などを引き受けたくない人が多いことが課題だと思っている。私は地域に貢献するために色々と活動していきたいと考えているが、多くの方が、もっと積極的に地域の活動に参加し、地域を良くしていけたらと思う。

委員

私も結婚を機に西脇市に住むようになった。都市部から

転入してきたため、当初は様々なことを不便だと感じていた。しかし、現在では自然が豊かで良いまちだと感じている。私の子どもたちも西脇市に住みたいようであるが、進学や就職を考えると、交通事情や就職先等の理由から市外に住むことになると考えており、帰りたくても帰れないというジレンマを感じている。

私は保育現場で10年以上勤務しており、日々、保護者の方々と接している。保護者の中には、様々な情報を総合的に判断した結果、将来を考えて、別のまちに家を建てることを選択する人もいる。このため、特に若い子育て世帯やこれからを担う若者の意見を積極的に聞き、市の施策に反映させて欲しいと思う。

私は子育て中の保護者が集まる交流の場などに行くことで、友人ができ、情報交換ができた。しかし、仕事をしている保護者は朝早くに子どもを預け、夜遅くに迎えに行くため、保護者間の繋がりをつくることもできず、子育てに関する情報を得る場が不足していると感じる。西脇市の子育て施策には様々なものがあるが、特に共働きの家庭には届いていないように思う。非常に忙しくしている保護者にどのように情報を届けるかは難しい問題だと思うが、情報発信の方法を検討して欲しいと思う。その結果、住民が「西脇市ではこんなことをしてくれている」と実感できるようになると思う。

委員

私は西脇市内で4つの学習塾を運営しているほか、月に1、2回、県外の学習塾など、他の場所に出向いて講演を行っている。そのような活動では、「西脇市を知ってほしい」という思いで活動している。兵庫県内には約3,100の学習塾があり、その中で私が経営する塾は23番目の規模に位置している。さらに成長していくために何をすべきかを常に考えている。先ほど発言された12人のうち、5人の方が自身の子どもが西脇市に戻ってくることについて述べられていた。多くの人が課題と感じているということは、ビジネス的にはチャンスとも言える。このチャンスをどう生かすかが重要だと思う。

今回、審議会への参加を通じ、もっと大きなことをしていかなければならない、といった意見をたくさん出そうと思っていたが、様々な分野の委員の話聞き、教育分野だけでなく、福祉、農業、観光、女性の問題など、自分自身

	<p>の学びを深めたいと感じている。</p> <p>教育分野では、学校の統合が避けられない状況にあると考えている。すでに単学級で運営されている小中学校があり、子どもの学習環境としては良くないと感じている。統合によって複数学級を実現することで、子どもを守れたり、能力を伸ばせたりすることがあるため、もっと迅速に行動を起こすべきだと思っている。</p> <p>今後、西脇市から教育を広めるために、教育関連の本を出版するなど、更なる活動をしていきたいと思っている。この出版活動は、経営する塾の成長だけでなく、卒業生や近隣からの塾生など、就職希望者を増やすためでもある。毎年1～2名の卒業生が塾の先生として戻ってきており、これを拡大することで、戻ってくる若者を増やしたいと考えている。今後も教育にとどまらず、様々な分野で他の方々の意見を聞き、互いに協力していけたら良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>近隣市町の審議会にも参加している。総合計画が網羅的になってしまう点は理解しているが、施策など、もっと西脇市らしく尖ったものがあるのも良いと思う。他の委員も発言していたように、この計画を実際の行政運営でどのように生かし、実行していくかが重要であると思う。県民局としても、市と一緒に、地域が良くなるように支援していきたいと思う。</p> <p>若者の意見を聞くことが大切だという意見が他の委員からもあったが、今後の審議会においても若者の意見を反映させることが必要だと感じている。具体的には、大学生や若い世代の代表者を委員に加えることで、将来を見据えた意見が反映されると良いと思う。人選は難しいが、審議会委員への大学生等の参加を検討いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>2年間にわたり多くの支援をいただいたことに感謝申し上げます。議論の結果として計画案が完成し、答申を受けることができた。今後、行政内部で最終的な決定を行い、計画を実行していくことになる。各委員からも発言があったとおり、この計画をいかに実行していくかが最も重要だと考えている。計画には、この2年間に各委員からいただいた様々な意見が反映されていることを踏まえ、職員、市民の皆さん、地域と一緒に計画の実現に向けて取り組んでいきたい。引き続き、ご協力をお願いしたい。</p>

会 長

これまで8回にわたる会議の進行役を務めさせていただき、その度に委員それぞれから貴重な意見を頂戴したことに深く感謝申し上げます。いただいた意見が、どの程度計画に反映されていくのかを懸念していたが、期待以上に多くの意見が反映されたと感じている。

本日のパブリック・コメントに関する説明でも、具体については個別計画に記載されるとの回答があったように、総合計画の性格上、具体的な推進を担う「エンジン」が備わっておらず、個別の計画が総合計画の下でエンジンの役割を担うこととなる。この点が計画の中身が市民に伝わりにくい原因のように思うため、より効果的に情報を伝える方法や仕組みを検討して欲しいと思う。

色々な場所に足を運ぶ中で、「西脇市」というワードに触れることがある。先日訪れた京都のある地域で行われていた藍染は、西脇市の人が生産した藍を使用しているとのことであった。こうした交流を通じて、私も西脇市への愛着が深まっていくことを実感する。西脇市に対する愛着や誇りは、こうした実際の体験から生まれるのだと改めて感じている。このため、子どもたちにも、できるだけ早い段階で、教育や福祉、農業など、西脇市の活動に関わる機会を提供することが大切だと思う。そうすることで交流が生まれ、より一層、地域に対する愛着を深めていくことに繋がると思う。

私のゼミでは、学生を現場に連れていき、より実践に近いところで活動することを大切にしている。最近では、他の自治体で、農村部の高付加価値型インバウンド観光に取り組んでいる。地域経済にプラスとなるような体験型メニューの開発などの取組を通して、田舎ならではの魅力が多くあると感じている。他にも、都市部から移住してきた若者に、移住のきっかけなどをインタビューした結果をまとめる仕事をしているが、移住のきっかけとして多く聞かれたのは「たまたま」ということで、どこのまちにもチャンスがある。持続可能な地域づくりには若者の力が非常に大切だと感じている。西脇市の様々な取組を通じ、西脇市の知名度が高くなることを期待している。

市 長

○ 市長あいさつ

先ほど、会長から総合計画の答申を受けたが、令和5年

2月からスタートして2年間という長期間にわたって御審議いただいた。本日で8回目の審議会ということで、委員の皆様には、様々な視点から熱心にご審議いただいたことに、深く感謝を申し上げます。

総合計画は、本市の最上位計画となるもので、本市の目指す将来像の実現を目指して、まちづくりを進めていく上での道標（みちしるべ）となるもの。会議は一区切りとなるが、委員の皆様におかれては、重要な審議に関わっていただいたメンバーとして、まちづくりを担う人材の一人として、今後ともお力添えをいただくようお願いを申し上げます。

< 閉会 >

問合せ先

西脇市市長公室政策推進課

TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014